和字五百題

四季恋雑

へ 4
4276

去水五味均平蔵

年内立春　佐保姫の霞の衣年の内にはやたちそめてのとけかりけり

立春

なかなかに神代のむかしの空よりも見せてし霞をむかへし

たてそめし春もきにけり消えてかへる春はさかへるうら人

ほのぼのと霞のたてる海のとかにしらぬ春のみちかな

春きぬと人のいふ若菜の岩水いそしかさねていつまて汲まし

あらたまの年のはしめに出る日の影もかはらぬ春の空かな

岩戸あけし神代の春にたちかへる霞の色のなほそめてたつらん

立春風

ふく風もまた雪をしぬる山の端に氷もとけてかよふ春風

立春朝

一夜明けてむかふ朝日にうちいつる三の鏡のかけそはるけき

立春霞

ほのかなる霞の光みえそめて春たちにけりあまのはら

初春

いつしかとふきいれしやまのはる霞とかすみてなにおもひけん

けふもとけしとのまに若菜つむ春のやとにはなほやとりけり

日本にあしたみつ春のこころは春の色さへかはる霞の空

むかしにかへる春の御代をまつらんとしたかふたちそめし春

ほのかなる雲のいろにも霞たつ春の日の影ものどけかりけり

鏡にもうつる光のなほさえて春のそらとやなりにけり

いつよりも待えてたのしき春のうれし年の始の春の初

氷とく池の汀に[illegible]

初春松

早春風

早春霞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山早春

早春野

早春河

津早春

寄路早春

早春鶯

春至管絃中

子日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

子日する[illegible]

野子日

子日松

子日する[illegible]

[illegible]

子日祝

子日する[illegible]

霞

[illegible]

朝霞

遠峯霞

野霞

郊外霞

橋霞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江霞

瀧霞

川霞

海邊霞

湊霞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

都鶯
[illegible]

里鶯
[illegible]

霞隔村鶯
[illegible]

初鶯
[illegible]

初聞鶯
[illegible]

鶯知春
[illegible]

鶯別
[illegible]

雪中鶯
[illegible]

曉鶯
[illegible]

夕鶯
[illegible]

野鶯
[illegible]

里鶯
[illegible]

山家鶯
[illegible]

竹裏鶯
[illegible]

鶯啼梅
[illegible]

鶯為友
[illegible]

鶯誘春友
[illegible]

四時中鶯
[illegible]

若菜
[illegible]

雪中若菜
[illegible]

野若菜
[illegible]

水辺若菜
[illegible]

殘雪
[illegible]

野外殘雪
[illegible]

林下殘雪
[illegible]

山殘雪
[illegible]

余寒
[illegible]

梅

若木梅 老樹梅 月前梅 梅風 梅薫風 雨中梅 雨中鶯梅 夜梅 梅花盛夜 梅香留柳 行路梅 早梅 深梅

いやなおしと久しきさてん梅のうちなかりけりよれやこしぬ梅の香をもて惜りかれ
わかしふへしてんにうちなしてよし梅の香をも深くなれはこれうきもむらかん
みんてくこもつきて久しきの色よりやりよりしかしくゆのかる梅のうへ
さ花れやむてよしれちなれなれのわきれ梅のいつ花れにしの
とししふりの香をもわらはむさらの花にも若木の梅にはちきる行すゑ
うはし梅をいくさちらそてもりの香もきさしきより若木の梅の末枝を
わふれし深梅香かおいこし老木の梅なかつかれ一間ちやく
もかれ風の香のうちくもゆゑてより梅のなかりの月のかり床
こゝら深と初ふるやとゆめんさかひとき梅なかり[illegible]
そこをかしやもこそみん風のうさゆうさきたのえ白をかおかうく
こゝのゆのも木うけいつしうねとも風れかせよそよにれ梅うく
松梅初午よりもなかしし梅の白ひやそへくゑりれにもしをさく
梅のちらはしくおくれかねとわりそてそも深きくにかすもち
さやうれ雨もひふれれと高きてもやいやかな花梅の木のかくしも
そこをれしめら雨梅やれ梅の香かさなたの梅かるきよれ花
晴梅午夜深かいしと青柳にれれとこのみつゝもそり
さゝうそをゆの風されいしもうかしねかれ梅深きとふ
ごいてしも春の花むかん深の深かやうれ風さしにしふる風
香にかうしも行しもうへねぬ梅もねいと飛りれものとこりふかもと

古寺梅 鶯囀梅 梅香立花 落梅 梅有喜色 柳

こうれよくと晴れやも古寺れいあきしし新しく[illegible]
なかのちりやむうし初春の梅白ふかしす
さゆうるり新梅やこ梅人もさかふもちうお香にも白からん
いくえりもかりゆちきうくの梅色の白し梅枝のいのふかさくらん
春ぬよの香の花の夜はまくさののこゝろとやうくし白ふか梅うし
さくしうらくの花はなのやくさよ風ふゆうしとやかくすのかし梅うし
鶯ふかりとやなかりもむしみのちらかちらふし袖れ色合きりも
いちかは深きちぢれりしもとそてさかもかりしふ雨花とかもちゑのうへ
ふうけかし雨梅の水も青柳れりふゆふうちんていけこつすふし
うよりそてなかふもゆてゆんよりやなひしちかはの青柳のいと
ふかふかなひしよそのんいゆ深ゆもゆもとも深きもむ深青柳一のふかく

柳風 柳帯露 遠柳 春の柳 若草

青柳れいとう一丁しゆ保姫のゝ春のいしらむそりいゝくにふし
青柳のみとりれのゝふりうけそく一雨やりのさし[illegible]
ゆさこゝとうなひし柳のゆうかふけかかしとふかりそて春風梅かすん
ゆきこゝうち風ふたりひきそくさしかもぬしもちなのえ青柳れいと
山かれうさしとそふんそし青柳れこのものもちゑのかうちのゝうさ
たくひかりてられ柳のなかゆかんのうつふるすくきいとれへこうしとうい
やゝ青むりえいゆ流ふしきれりていんのむすりむくさきたなるうしも
ゆきりさくならくのまよれれいけるふらう一しはいゆゆかさなくさゝ

若草　霜かれし若葉はすくなくて荻かとしみどりにさくる風ぞふく

焼野草　うちわたす見るめのとこふより焼野の若くさも春にもならは若くさ

ことしは　おもはずに初もえ出し武蔵野はしるしもかはぬ

早蕨　むかしかれ草のゆかりやむさしのふしくさに荻見たる野の早蕨

樵路早蕨　たき落ち松に露も別し山人のつま木ぞかつまねのさわらび

樹陰早蕨　里人の山路をはけゆくしかなしらぬかくれしまる蕨にひかりをしるし

春月　たなびく夜の霞はれて夜月かけもたえなれぬ花のさやうかてる春　うけは松霞にうへかつそてなり花の梢をかくれたる夜の月

春月朧　このもとは世にこともえ人へはすくしえるもとふ春のかけしるものよのはなの月　ゆふつゆの木のもとかくねしたる夜はしらかすくしに霞もはれ

山春月　立ちなしふかはれとへふたるゝ夜にうちむもとうける月そのとけき　ちへすむらな雪ちらにも松もある霞のうきはかれや月にそかむも

江春月　うすむらよみ月にそこあるちかのかけ霞にちからのかれも

湖春月　ちるかとみれかけるをねしもれゆも霞にこえんと月に見え

春曙　なきまよふ夕小亭もこ松はたうる花きる月の花ちき　谷かくれ山にえうかれく雑をえうくさうて見る月は霞もわり江

山さくら　ゆふかすみ夕かへそさらふてふらひ霞をなへさる月の夜のけ

　山かてふのこ見しも別きよけれ霞かふかるれはけかゆく

佐保姫の別にみれんしなもれとや霞にみ来る春の山うちあかれ

暁霞　このもとは霞にえんとしかのしも霞の見えしはもちのわけかれ

春雨　はもれに見えるにもさはりにも嶺の花そもまこもりのはけかの　ふるくこもきは霞のうちもあらへんきやこうかの山しもかけ遅く

閑居春雨　あをせ雨も知りそぬはいつききもこのすめひくる中にも霞ゆく　秋さらふかり帰りへはかなりたかもあかふかんの霞も見る　よほもかりも見にかふ別ふたれそやあまれなかのよりかれたるとふん

帰雁　人家の闇に松月濡らしはやあか俗まとてこうれるそ霞ゆる　なこうはかれやことをうるはとかりの見れうらすはにゆそふかー人ゆ　ては一うなかれもうらしれ夜しふとこれくしはかなるのを見ぶ

月前帰雁　夜かへしくはすそしたう家なるれ一まくねとかふのなもてるをかし

暁帰雁　たるきてそはいつきとこれしつらも立かへさかれひそ侍しきてはなるの森

雲中帰雁　月かけれもかれもたかれひをうけとのふ思ひかけしてやかけしゆるふも　れこもちふり月ふとこれとしはかれかはしれたる雁やうへ侍そ

夜帰雁　なれあらななかこてもれそへてたかりやうしますますそ雁の行ゆ

深夜帰雁　月かれさへきしてやゆうて年しぬかれまつれゆるもきゆふへ小　なこそりかれやまれし秋もたるれ夜の霜もうなかとのそ小筋　月のたしもかりのしれゆかれゆもいのふ人まてし雁ゆかそも　さやかなる月の秋ともや霞むしれゆくれもたらいてゆうりの森　夜深さふなるといそくらものゆう一人かれもまのふへきまとこれすしねを

海辺帰雁

はれわたる行ふなむん左州れ月須もすくて沖かうらしの松
てほすしその海路漕々遠くてなかにやも月もわすれむ

帰雁

なかころなみれふうさや雁の中空よまえの行いねなくし思ふとうかりしと

春駒

草ゆとむ野くれ近道ゆきえり行きらや行うねなり
つなきうねしなひうれとしきらむれ木うけやきよねの沖へのむつかけも

牧春駒

一むらのれこそこいちうりもまのしりてやたつ野へ帰れ行れ侍うむ

雛子

こゝに行かし理へのうくへんせよ子のたのに庭いなかれとて乙ん

雲雀

そこしとかし行うりひそりぬしいと花にれ行そふ宮すやなひし旅客
うけうふゆゆ野りに八夕ひたり行うしとしえへむ宮ふうきうらしすり

雲雀落

若草れ衣よけふ見かりたつれかへに床行さふてやひとりん旅らん
ゆふひたり旅になりもかさ野へしとこいいふ萱のいつくうちいら聞し

田雲雀

ちえんちかし床行れ夜とや夕ひたりうえん田の田九宮ふなかうらん
もろこしれよし野いきへん田家九屯い梅九くれ年しれ入ねやま

梅

沙世ちかう塚見きふさききえやんとしさらいふ花九れ小なたち夜
さら野行ぬ行をしそしも梅花さうり行露ふうん塚よしもかれ
年しふかかし梅九りめも香もそしふくもしとて花そめかれ夜
見えし野いまてんさらん山さくふ白ひよきゆふすぬれとの花花
梅よう床たしひも行の塚梅花凡の川ふふなかしきまの花りん
花い香しやむといい香九杉もうけふひと川梅行みよし 梅しい

山桜

花ふしあふしれし山のさくふ色いしてらやさそ手し露うくさゆらん
さけいまし花しかしとかん峰もふ手ち絶し我と行路ふえん
なかすらふ宮も花やしの木白ひくる今やまししれも香九山の嶺

花

行こなりしかゆわも行やかいり小香年う法ろん行も風に樵ふて
花さうり五ても宿も我ひと川見ふ白ひ色さしてねの流れたかうせ
香さうり野さ花しかと我しけ来れ風う法ろいねすれ花ふふ分ん
さむらいね風のもちうけふれゆとひちうもゆゆも宮れ杉もうけ
家九君ふう法家とかよ宮降れ行らくなのらよそとや乙そとし咲らむ
見すも香も佐りふねうる年しれ花ふうけこしつ君なことれ宿ふ
花のかこれりさしてもこゆの見れいそ流れ沿の花いりくれそ
さし沿ちの作をしそし来さしとれ花ふいしたひすの都のふ花ん
よしやふけれたくひるこさ花の見ゆふいゝのうすう雲れ了うひそゆかむ
見ゆ人のなか流いそる夜ん作もさしとや花の桜ふくにほひ行舞

沿花

ちうしとふ行う見えしや花毛ふいなうん年見ゆせむ宮九たうのとうの都
夕ふいしうやとられ夜とても花桃花年しちきうれもすひてそとらん
さけいさねつふゆいちれと行かとのんいふまそ手風ふころるさき

湖行花

つれなかく杉ふこまらし花もやしあふむ木れの九ちす雨そ小流
まらこきよりまり川作ん九たう花ふ見ねかゆうけも白ふ木れりまと
さらひや風くちうくいらし杉ゆうけも宿ふそひとしとかれますころく

雨中待花　雨ふれはいとゝまちにまさりてさくらはなさけもあらしにけさはちるらん
おりふしのあめにそれいとゝさく花をまちかねけるか人のこゝろは

初花　まちはてしいつのはるにかさく花はいまはつはなの枝のしら雪
なかめやる人のこゝろもさくらはなはつはなかけていろにゝほへる

花未遍　山さくらさけりさくらすとこゝろにかゝるはるの白雲
見ん花　ちりかけてこゝろはかりのさくら花いつかはなれん花のしたかけ

見花厭人（右下小字）　かねてそみしはるの一木はさきにけり人もかならすとはゝこそあらめ
惜花　こゝろしてかせのさそはぬよのはるはひとりかへしと花のもとにて

　　　さくら花にほふねかひにまかせてもかきねをこそはいとひこそすれ
　　　花よりもひかりそふらんはるさめのふるはかきりのいろにそありける
　　　花をみるをしみしいろもかのさくらはなのちりかひいつかたのはるの
　　　ゆふくれにまちてさけるさくらはなかけはいもせをわかなくにして

花未開　かはらぬものゝさくら花ちりなはいかにわひしからまし
交花　ちるらむかはるのこゝろのまよふらんさくらにかゝるあさかすみかな
折花　山さくらをりてかさゝはいろならぬ人もこゝろにとゝめてやみん
遊花　さかりなるはなのもとにもとひくれてたれをまちけんはるの夕くれ
月前花　をりしもあれたかさくらそもあらしふくのはの雲ゐにさわくはなのしら雪
花下暮　さくらはなかけをたのむとかすみたつはるのゆふへのこゝろにそしる
　　　いつはとはおもはぬものをさくらはなちるにもかゝるこゝろなりけり
　　　たのむかたもなきはるかなやよひのかせにちりまかふらん月をまつかな
　　　このはなのちるにもかゝるはるのよはをしむこゝろのかはらさりけり

花似雪　むかしにかはらぬはるのしら雪はさくらのちるにまかふなりけり
風前花　かせふかはいかにせんとのおもひにも花をそはかりしらぬころかな
　　　うつりみてこそおもひしれ風のまにちるはかりなる花のいろかな
春風花　はるかせのそよくよもきのやとにさへちるはさくらの花のしら雪
　　　まつかせはのとけかるへきはるのよもきのやとりにはなちるらん
雨後花　さかりなるはなのしつくのしたつゆにぬれてそかへるはるのよの雨
花似雲　さくらさくやまのはかゝるしら雲はいつかはれなむはるのあけほの
暁花　山さくらあかつきかけてさくはなのゆふへのかせにちらしつるかな
　　　ちるとみしはなのうへにもたつかすみのこる月かけかなしかりけり
　　　たそかれやゆふへのはなのいろもかもあはれしるらんはるのよの月
　　　山さくらはなのかすみにまかふらん月もかゝやくはるのよのそら
　　　月のこゝろおもひのうちそとよやこゝろしてみん花のもとにて

朝花　おりしもあさのはなのつゆかにほふらん春のあけほのかすむあさかな
　　　立よれはきえてゆくさくらの色のあさかすみたゝぬまにしていかにみるらん
花下送日　ふりにけるあさの日数のたのしさはあかぬはなのかけにくらして
　　　なかきひもはなのしたにそくらしけるはるのこゝろのゆくへしらすも
夕花　ゆふされはやまのをのへのさくら花かすみにこめていろそまされる
　　　ゆふくれはいつもなかむるさくら花けふはひとしほあはれなりけり
　　　さそふかせはあらしにまかふさくら花ちるをもしらてゆくへしらすも

夜花
夕ぐれはそれとも見えぬ梢にもさしてかほれる花のありかは
よる〳〵は…これはさくら花の香も木の間の月にかほる夜の月

夜思花
さく花の木の下かげにたちなれてさても匂ひやそふる夜の月
秋よりもなほしのばるゝ花の木の下にもさける夜のなさけさ

山花
ごもし火れも…ゆるさくらは山にさへ咲くといふらしとたくよし
ふる雪の…白く見えける山のさくらは今さかりなり

山花盛
立まよふかすみもさて山の端に咲み白く見えし花ざかり
なかなかにとのこしてくる峰の花のさかりはけふぞさかりなる

嵐花
さしてなほ…しまくのふかきこけの夜にさえてやけに吹く嵐かな
うちそよぐたちも木々そで山おろしの風ふくらむさくらの花

岸花
花のかげしばしとまりてにほふなり吹きくる風にちるさくら花
まれさこうよそにもみえてしらうらきやたつすれ山風にちるさくら花

水辺花
白川の水にうつれる花のかげ岸にちるらむさくらの花も
水かゞみ花のやどりのそれゆゑに千代もちらさぬさくらなりけり

流花
ちれもとにゆくも花もかげる山かぜに花やまがふらむ川のせの水
夜ふかくにうつる月の影もまくらにしるし花のかげ

浦花
ゆく川の水にうつれる花の色…
ましたたく波の色にそめてしらぬ…

磯花
山たかき木ずゑの花は流れても…

星花
うら人のなにこそはれて衣かすみのうらのさくら咲く
それとなく入日のうちにこそかくすみのさくらなりけり

禁中花
ゆくへのうちに…とやまのさくらをもそへてまたこそ
九重の雲井のさくらいろふかき花はこの春のさかりなるらむ

古寺花
それの庭の花もさかりにもる山寺のさくらの花にて…
とつせし花さくらいつもよりはなほ…

故郷花
うれしのをと…なれてふるさとの花をくらべて見るも…
待つりてうれしくもやさしくなる花をしのびてさくさとの花

山家花
絶えて人もなきさとにたちさまよふ花さくらかな
ふるさとのゆかしけれはさくらの花をさらにみむ

閑居花
すゝみてゆくさとしよりもあまりさくら花にさくらん
のどかなる宿の花にもちらぬ風をいとひてさくら
山ずみもたのしかりけり人のなさけに春のゆふぐれ

庭花
わが宿はさくら花のさかりにとりくるもしらでそのかげ
のどかなるやどの花のゆふかげにさくらをこゝろよせて

松間花
花さけばこゝろもさらに庭のさくら木のかけてやよし
こゝろしにぞみてさかりの庭もさくらをながめやる
たのしくもいつかはあれとひさしくて松の間のさくら
松の木の間にみゆる花の色も桜やさかりなるらし

消えへ紅葉ちりしきつる山風遠さし松のひかりしたは
ちりしかぬ風の末にゆふかけてしのそれは木の川かはに
ちる波く松本の花の竹の宿や咲くの雨やさきにかへ
ちりのたちゆかちの松にちらすてや木のかたしれを
なお残しの庭上の桜咲かゆしか川にひかりしもちりに
よきとともいつしれれ山はやとしれ松に枝をとへ

花庭花
ちる花のかへの雪の庭みちかへの春雨にかくのゆき
花梢
この雨のくも行てかへの枝の花の梢に残りて
花枝
ちる花の山の枝の桜花の花もらかた
花下
さく花の下のへの山川の風もらしも
花衣
この花の花衣のかな花のそての花衣
花陰
まれきり花をかれたの花のかしこ
花匂
さうちの宿のかへの木の白きの花もちの
花盛
ちりしまのちの山のかへの花の白ひと花もちの
花形見
ちり花のかたみの花も花の色のかたみに
惜花
うちの花もそ花をたの花のちらしのとかしても
身にそへて惜しも花やかに咲く花の花のなごりは

対月惜花
うちはらふしもゆくいつらふしさくら花の月のかけに
ちりかかる花のかけし月の花にもかへしみ
落花
ゆふ月花のかたぶく花のそらにとまる花の
かれちの花のゆくゑの花の月のかけに
またちてちのかけも花のなかに
月前落花
はなそへにとまりしの花の月かけに
よきよしもいかにいつしか月の花
暁庭落花
わかれて庭にちる花の月のかけ
落花似雪
よしやふけゆくの月もみえぬ花の雪
羈旅花
ちるもののこの庭の花の
うきたびもゆくへの花のかけに
名所花
なへて世にしらぬ花のちりのこりけり花

花如舊
[illegible]

三月三日
[illegible]

賞桃
[illegible]

水辺桃花
[illegible]

春日野菫菜
[illegible]

野菫
[illegible]

雛菫
[illegible]

夕陸
[illegible]

雨中陸
[illegible]

山田苗代
[illegible]

藤
[illegible]

藤
[illegible]

松下藤
[illegible]

汲松若
山家人
[illegible]

川山吹
湾山吹
里山吹
[illegible]

路山吹
[illegible]

蘆
舟よする棹のさはりも蘆原のむらさきにそくたる此川こさし
よしやたゝなにはの川にちきりてもいまた蘆の花のさかりを
松蘆　蘆原をわけつゝ川の松かえにかゝれる藤のむらさきにほふ
蘆掛松　はるかなる一本の松ふかくしもかゝる蘆もいさなみの花
籬頭蘆　ゆふの世にたちぬるあしの岸にむかふ松に蘆生る
水辺松蘆　池水のそこにかくれてうけるおほゆ石の上の蘆も
池蘆　蘆原のかたえにおもひやすき池のこゝろもしらぬ
江蘆　舟さしてこそこぐれゆけと松かえに蘆さしつゝ池の中に
渡下蘆花　沖津風ふけはみちくる江の江の松のまたえんにふちなみ
浦蘆　見わたせは蘆間さしくる舟さそふ蘆もやさしくもをしむ
さける蘆間　おもひ入のこゝろもしらぬ江のなみ
暮春日　はるのみのこゝろにたえてかけたる花さける川のみつ
暮春雲　ちりはてて花のはなにもにほふらむ
暮春水　さとのあしはなにそむかしのことのはにまつらむ
日日蘆　あやせ川花もなかれて水のあはのきえぬるにしのふ
　おもひやるかたなきこゝろやうらむらむ
暮春鶯　ちりはてし花はわかれしさくらのねにもなくやうくひす春の暮
日日鐘　これはこそみるの花かれはなかにかへるらむ
惜春非一　なにことにもおもふへきこゝろもしらぬ春の月
留春不駐　こゝろもとめむしもせきとめぬ春のゆくへをとゝめえて
三月尽　ありあけのつれなくみえし花もけふのこりのこゑ
三月尽暁　なかれしさくらの花もこよひのゆきにちりはてむ
三月尽夜　かきくらしてはへのわかれをしたふ
偶吉法来
春
ゆふくれの春のなこりやしたふらむ
つれなくやなきの花もちりはてぬ
うらみのみこそむかしの夢にかへるらむ
春山　ちはやふる神のみまへにさす松の枝
春鳥　風わたるかすみのうちにうくひすのこゑ
春虫　おもふかきむしのこゑのうちにこもりてなく
ちりのこるさくらはかりのこゝろにそおもひはてぬる
すみれ井のそこにしみえぬ

春居所　鶯の伝へきかれの家さへしらてうハ花のちらうやたのしむ
かすこつる　霞やそふ神るとのさまかひ老をも生いそ流る川流むかれしさ
かうはんた　花うつここ小草わたかれ流りひとしかつハ流ふしちるれかゝ流やく
かことしろ　かそつ　ひらきなふいきうくやここんむ河流られ柳のさ風もいくむちちのしわ

夏之部

首夏　こゝのちるゝかしのさくしはの花れ梅らふたし側さひ移ゆそかゆふ
首夏餘寒　いとちやもさらは若苗ふれ涼そひとし袖涼しききのしの餘寒
首夏夏　たとれもましくと袂このうちや別るらむ夏かけしさくしれかんる浪
更衣　ゆきさうかるたあふひるふハ夏衣いりてのさうはよれふ唐ころてむ
立ちてし夏小猶らもゆしたあまゆや雲しくころの花桃見の袖
立之ちもと夏との衣しふさてしいめさこれものこ流てう
夏衣きのふにうちる餘うみむとふかけふもちそのこうしね
夏しうも色の絡くも■ぬきうゆるよの本かハし絆ちかやうふ色む
残花　手れくしなこうかゆ（ハ夏きてもえよし情ささ風深の袖
ゆきさの今のあゆしゆへのこしら孫猿麻の衣ふ花の衣ゆや志のむ
新樹　ちら風のいろふよくさうるもあらむ青葉ぶれ中小のこし流一もやし
夏山のひとたことうも花の木いつさと若そわいろそ白と添
木陰の水もここうれりしあゆらひと志ら紅若葉ふ我うけ色くいふし

新樹行月　春深し夏服こし花のかけも風景しうる木のはれ夏わ夜の月
雨中新樹　雨流うふ雨中作雨わ此もかしけ納るくに係無あそつきと涼しき
卯花　ごれるくさ道ハうへまぬ卯さ風の垣根の雲中友そすとさく
夕やこれ更ふ志ぶ雨月の中のかけ花にの枝やさらされ卯の花
卯花似月　木の名よりもうた月の出んうかかし青葉かつまふさうされ卯月花
卯花夾路　夏も雲ハ夏のしたとるまてみ小籬の山路ぶさうされ卯の花
葵　ここや人の今ふのこあれふあふひ草うさらハちにるしもいくよく悠ふむ
そのうこのふしと無菜たふうらふいくよくもの夜ねらうさしや葵のむ
神祭る折ふあふひの申うかけにしふ氏人のかさしふそさい
郭公　卯の花の垣籬の間ふ申とさきは志のひつ袖てやし怒のふひらむ
まちやせむ卒やゆくむ申とさきは里つくいしろいとのうしれひる
申とさきハをの五月をゆふ附夜小くいみこふをとろへとかく
ここのかくふうさやとうしと申とさきはもし雨るうそゝふ鳴らん
名もなきちるう雨のさそふくころしろやさ申とさきは流るら立とふく
鳴しろのせせとたのこハ郭公いふはさとこめなもちろうちろうり鳧
寺郭公　氏へつりしきさそうちるとさきくも郭公さやいく里小すきさのふそしし
分流くハ郭公やうちてる雑雨し急行いうちたれこ神ん
そらこふ初音もふいとも申とさきはゆふ人こもふきつやた流移も
かやしきは五月まつまの神し急ハ恩ふのこの杉しやくに移む

待郭公

分きけることのゆくへ山のまもなきゝしのゝめのひとりの一こゑもうらみし

去年きゝし山路ふしても郭公たつねわひたる名残はきそゆふいせむ

きのふ人ゆくへふいはくやしやきゝしほとゝきす山郭公おとつれもせぬ

雨中待時鳥

夢ふいらぬやすらひの郭公まちきゝし忍ぶむしろの枕むつまじく

降る雨のなかくちさきに小夜ふけてきゝすてもなきひとこゑをまたずとも

人傳郭公

郭公まちきゝしたゝ一声はつねにこそきかまほしけれ

初郭公

ふりそゝきたるふかむ郭公きゝたのたみんなふしおもふかなしき一声

郭公ゐのるの月のまよりもこれなからきこゆるうちの一声をまちしぬ

月前郭公

すつ夜かいちこゝろふくともよしなき郭公まちなかくしふかくひとこゑ

卯月郭公

りふ年といつのひとしほまつ郭公夜の声の夢ふかれよ

五月郭公

郭公たれゆへ(?)のよそのよしも川をいきゝのひともなし

五月五日早朝詠

郭公まちきゝしのゝめのあさき夜もしのふる郭公のいはねのこゑ

曙郭公

郭公思ひいつへしはやあさの郭公かすかなるこゑのあけほの

朝〃

郭公りふなは五月雨しのとやいやゆふくれのみねの郭公

夕〃

たつかふるちきりをきゝての郭公ゆふひかしたふ郭公の雲はよそになくら

夜郭公

夜ふかくまちふかれふ忍ひとし郭公きゝてもかれしまつの木の一声

きのふやめつるかたの夜はふかきのこゑも郭公まつたれかなくらし

郭公稀有

郭公まちしかぬ夜はの月の忍ひのさとにふしきく

郭公数声

一こゑにてもかいこすひかりの郭公まちわふる五月の一こゑ

郭公頻

いつもよりふかのしてきく郭公まつよのこゑもかきりなく

郭公遍

まくれてしきこゑ夜るもきゝてなのかきりもなく

山郭公

ことしみしさくらの山にはるのこゑをまつ郭公のこゑ

里郭公

月ふのこゝろなかしき郭公の里にしきゝて夜半のこゑ

田中郭公

人とふぬ宿をとふらひてきく郭公ゆく夜半のこゑ

船中郭公

ふねさしてもえいさやいは郭公きゝてふなのこゑ

簷中郭公

うきふしにかへりきく郭公まちきゝてもなきこゑ

郭公いつかふ稀しよのなかゝきくらし夜半のこゑ

庵室郭公

まつひとの稀の夢のまの郭公きゝてもなく郭公のこゑのなかるらし

東寛郭公

手枕の夢こふなかにきくまゝに宿の稀ささめてもなく郭公のこゑ

郭公待恋

郭公稀

早苗

早苗多

五月雨

菖蒲

軒菖蒲

江同

園同

橘

盧橘

簷盧橘

雨中盧橘

梅雨

五月雨

連日五月雨

浦五月雨

橋五月雨

杜宅五月雨

底五月雨

夜水鶏

夏月　夏きては涼しくもなき月影にうつろふ夜はの秋

なるゝ夜の光りに結ふ月影も涼しき夜はのけふの月は涼しき

影も見すそれ芦まちこえの夏の夜ふかくしき夏はよの月

見る花も夏は人まつ夜はつゆも槙の戸さゝぬ月に暇して

月色如秋　涼しさは宿も夏は秋のけふにうつる月の下風

夏月似秋　下草は夏ならぬ心ちにゆきて川中にふくるへき月は涼しさ

水上夏月　涼しくもうつろふ月は秋のうちに秋風やよはる池のさゝ波て

いはゝく水のあかいたゝかれはゝ行水の秋はうつる月の涼しけれ

夏ふかき芦の水に月とりてかへる江は月の涼しけれ

河夏月　行河の見れはなかれと行水の夜半風とつゝる月の涼しけれ

行路夏月　行舟のそり照る磯の涼しけれともくれぬ夏の夜

涼しさは夏ともなしやいさら井の末にしてゆく夏月影

樹陰夏月　若井の夏のかけの夏の秋なき月の下風

社頭夏月　秋よりもくはしき松かけの月の行末や宮の夜風

扇告夏　夏なれとかはらぬ月や秋きてこそ見れゆふひの手柄に涼しけれ

秋の初のゆふまくし扇なるゆくさにそよくふかはる

たゝちはの庭の秋しゝの扇の末にかはるかな

身にふれゝは涼しくも山住のうき世にふれしきなかしこの扇

扇の手かはく夏の秋のまたち沈ゆく見たなかしこの秋

夏草　夕立にふるまもなくなりにしひこの秋やまはらむ

夏月に涼しきその宿もひとつにとりなる夏草

夏草露　末かゝるきは杜の川ともなかはねの夏の露は涼し

池夏草　出てとなる涼しさは秋なきまにつゝる杜の露はきは

径夏草　結ひとつ涼の夏をくしはよまに夏草にかくれまと

深夏草　行すゑの子のかしこくて秋なき夏草の花の秋に行しき

庭夏草　夏涼しくの雑の草のしけりもなし行とて庭の秋やまさは

撫子　月出てしはこう結もうつり宿の秋や流れてあきすゑのとふらむ

照射　結ひをふれさしくもなくひるのもかへしかゝる川の流れは月に行らむ

大井川ほや照のうふねさはらとも涼しにはけかゝる川の秋

やとりんし外山のうちまもてのひて水のるもてふるはしきしの秋

結ふたてなる夏の秋なれは涼しとも夏の月にさへもしの秋

持扇の雑雨流のやさしくさもしの川のなく　ふよる秋の紅は

なへ流も扇こゝろしふとるれとの風さへ秋ひとむれはなひらむ

夏ふなこそしなかの宿のさへひとやなくし扇の秋行しこのひゝけ

ころしもる松のうへもこしこの夜の岸にこゝろふ扇の秋にしは

夜照射　扇やさしなちとなへるふむもかへさ秋にとかひ夏をとしさは秋

鵜　とふな宿の夜しそまさしれとしなくかくしてゝか行えてそらて

えん行ことみし夕なるやこころよの夏すまふにそこゝ秋やとるなかる夢む

蛍似露

涼しくも浪のよるみつ流れにはかゝりし露か蛍ちらけそふはえく
夕風に木の下露にちる蛍とのみみえんやたまらぬなみたりしん

夜蛍

風わたる尾花か末にみだれてもちる露やそれとみえてなかなむ
まつ夜の空にさだかに光る蛍秋風ちかきひかり蛍ふけぬる

路蛍

水ちかき芦のはふかくまよふらん蛍あはれにかゝりて秋の涼しさ

水上蛍

月をそき池中のみかれにて露ふりのさし らんてくて蛍とれくらけ

水辺蛍

みれはふるさ新もなかれてそ行水のはてもれきてせねかけのひとえ流

池蛍

風にゝる池のさゝ波こよるしらて蛍かけの涼しけれ

沢蛍

池水のあさくかくれしろみもゆりの蛍や新ふらん

江蛍

みなとえの露にしもうつりて沢の蛍しも浪かたやとまらむ

瀧下蛍

紅に浪のよるしるかれ蛍の光をかけて瀧せみ

鵜川蛍

せきとめてかゝるひとてくて瀧つせれなきまちあらこり蛍とれ新

浦蛍

鵜ふねさしいる川瀬のかゝりなかれゆくつゝみやなかむ光ららむ

蛍照窓

よりくる浪ふるくこゑかはれつゝ海の月の空のさらく ふいてふ蛍とれ

蛍似玉

月かけそそきこゝろにとけもの夕かけそそふてまらしとかつ光新

堤夕顔

いふ蛍もとめるとえうしも玉さくれ無きなれ夜露と風ふきこれて
ゆれかゝりなるもの蛍もしとみえんやそくてゝしけむ
花よいつふ盤の垣かれそのとみこちきつゝけらむ夜露れの顔

路夏草

しれふきつき茂れるなれよそまよもなひくや道れ路も遠からむ
いつふむ夏草のふせやのふかさしましてよ眠し路もたくく涙

氷室

うきくさ緑れそくくてまよふかのひふむしせんふ路もさくくに
照しきてかれ流れてもきつゝ山陰ふみわけさるのふの氷室の氷

山夕立

なかるこれかねの山れ夕立小園れこなてもしきて風そきしきき
ちかむ夕立さそらしくふ雨こ急そしこのもしまりて通ゆうちちしち

野夕立

風きれふ雲一むしに小雨のすさしかなれなくく手すかりきさつかそ

雨後蝉

なくなる蝉れ花ふる山れ樹白るさて志流くふきそふれし急れ涼し流

山家蝉

なみきせの夕陰山に吹風ゆれのまきにまちとる蝉れ声ちる急

樹陰蝉

涼しきふふなかれもやいそくなくし蝉れたよりはそて夜ふ小松の風

路辺追秋

青かつくさころ未来れ無来ふまもふ本ふかなやふ流るて蝉やかららむ

泉

いつまてし夏の涼れ蝉れ声ふなきてしりとやらなふれ秋そくらむ

松下泉

まふなみちかき水れ風もつきるゝ里のもの流れもそふ涼し流

夕納涼

照下ひゆふよそふ庭てて木深くも松れけらる水れ涼しき

水辺納涼

まさとやふ暑なれ木れ川ふ風も落くる水乃涼しさ
ふ涼しくて涼るに盤れ新もこむ川辺涼しきなみ流の夕ふ
むすふ手れ雫にも流の涼しにかにかかやうよ涼山れ井乃水

樹陰納涼

さむかやらくも流けし涼しけや松下のとふかきしけ流月

晩夏

いとさをき秋やいくつしとかゆひ草穂ふうしるれかな風も涼しき

晩夏郭公　涼しくも河瀬になびく麻の葉に小河の流れゆふけしき浪もたちけり
郭公卯花月のさかりにもなくこゑきけばゆめかとぞ思ふ
夏祓　夏ふかくさやけき川にかよふ風の音にぞ秋の近きをぞしる
荒和祓　うちきよき川辺の風にみそぎして秋やくるらむ
六月祓　秋風に吹ふかやなりつゝも河瀬にかよふ浪もよる川風
流るれどもいかに今年もはやことくるゝかな川風
夏　年たかくしのぶることもなくてこそきみの河瀬もたちそひにけり
夏夜　五十鈴川いくとせかけてこそきしほかに浪もかよふらむ
夏跡　ひさかたの清き川辺の涼しさに秋の夜やすすしきこゝろにそあり
山家夏　こゝろにもとむる花もなき庭にひとり涼しき夏の夜の月
田家夏　ゆふされば涼しき風の吹きあげて夏のゆふべを涼しきとこそ
繩手にもかよふたよりの道もなし小田の風まつ涼しさぞ知る
水ちかくむすぶ庵は涼しくてたちかへる秋も近くきこえけり
夏の夜のあけぼのゝ秋風すゞしきに小田のはかま吹く
立秋　露けさに秋もまた立ちてかはる戸の外のころもをぞ涼しくはかれ初秋の
秋之部
立秋天　けふよりはかはるそらの秋風も雲井にとほく秋のたつ空
立秋日　むかしより秋をまつとし夏の日にふきかはる秋の風のすゞしき
立秋風　草の葉にそよぐ音よりかはりけり秋をしらする今朝の初風
立秋朝　いまよりのけふの秋にやなりぬらむ夜のまにかはる風のすゞしさ
海辺立秋　よる浪のたちかへるにも涼しさの秋をしらする一夜の風
初秋風　吹風はまたほのかなる夕ぐれに袖にすゞしき秋の初かぜ
初秋露　おく露のひかりもまさる夕ぐれに草葉の秋の色ぞ見えける
初秋暁　ゆきかへる秋のはじめの暁に袖にしられて涼しきは風
初秋草　秋の野の草のみどりの色の中にしらぬ萩の花咲きにけり
早秋　けさよりはたへず吹くる風の音に秋来にけりとおどろかれぬる
早秋雨　秋来ぬと思ふばかりのゆふぐれにはらふ袖にも秋のむら雨
新秋露　いつしかや草葉にむすぶ露見えて秋の上の空ぞはやくも涼しき
新秋田　秋きぬとおもふものから穂にいでてなびくを見れば秋の田の面

七夕

秋とてはちきりおきにし夕くれもまつにや星は待らん

ゆきかへる川きよせの渡しもきりたちて宵まち星合の空

逢ことのまれなるはなれ天の川ひとよのほとにしはしとゝめて

かりそめに逢ことはかたき星合のちきりのよはのあふむくやむ

夕くれは秋のためしも言ひすてゝかはらせやいそく天の川かな

まれなる契りしやくしき天の川こよひそやきかよひ星合の空

稀にあふ恨をなにゝいひそへむしはし合ぬる秋の一夜を

たなはたのこゝろにもあれとなかめくるしき人をもまてはこそ

星あひの川の夜のとわたしゆく舟のそこなるかちの音もきこえて

得七夕天
たなはたにかさぬる袖の秋かせに立ちもかへらて天の川つ渡り

七夕言
銀河ゆきかふ星のうきてたつ庭の一夜のまれのかけも見えつる

庚申七夕
こよひしもまたふたゝひの星合のちきりのまれにかよふもなし

七夕雨
ことしいはゆきかはれる夜の雨つけそむる夜半のうちにうちやすらはん

まれにあふよはよそにもきよいとゝかはるとかれはとかきしれつ

逢ことのよるをまちかねし星の夜半にいかりもやこのまれそへん

こよひしも秋のよのふうきやくれなゐ天の川まれなる手向ましき

七夕橋
うけたまはれ紅葉のはしをかけわたす天の川まれのちきりをたえしな

渡もり心ありてふかきよの星合のうらにちとせをまたむ

織女のまれの一夜をかはしけるいにしへの今宵のさきのいかに

七夕山
たなはたのこゝろもあれや山のはにまちいつる星のかけもみえけり

七夕枕
むすひおく袖の枕のいくよしもまたぬもゝせのまくらならんや

星夕言志
たなはたのかはらぬ星にちきりこし一夜の雲の空のかよひち

七夕愛
瀬々にうつる恨もかはし銀河としに一夜の逢ことのはに

七夕祭
ゆきかひに合ゆるしきむかへの花の色をこえ秋をまつらん

七夕祈
七種のたむけの花のいろいろにうちそへて星合の空

天の川こゝろにかけてまちわひし夕も秋のたなはたのそら

七夕糸
ちきりをもつなきそむる秋のよの星逢瀬やいのる袖のつゆけき

閏月七夕
いはふ秋は後の月ゆへに天の川のちかひをいかにつけつる

天の川のちの瀬をたちかへりまたなからふる秋の後の月のかけ

七夕硯
筆にかきつけてたむけのさかつきにかきしるす一とせの星合の空

萩
さきそめしのはのたけきのたなはたの萩のうへに風もかよはむ

かきくらしいちしるき夜の風のおとに秋の萩のはのさゆる風

萩風
一葉にもうちそよくなる秋風のそらにみたるゝ萩のうへの風

近萩
夕されは秋のまかきの萩のはのうへにかよふ風もさやけき

江萩
こよひ夜の入江のなみのちかくして萩のはの風のしらつゆ

庭萩
ゆきかふ人もやすらへ庭の萩のさかりの露のうへのはな

萩

初秋萩
をちこちに枝ひさしきかし萩のもとに露をきてみる風のけしきも

月前萩
うすくこく見えし垣ねの萩も月のひかりにうつる花さかりかな

行路萩
花なをしばし行かふ人もみよ袖にうつれる秋の色かも

深夜萩
くれの花ひらくの夜はやみなる秋かせにうつろふ萩の下つゆ

女郎花
咲そめし花のさかりを夜な夜な見つゝ秋はくれなんものを

薄
こけの下わけし袖にうつる露ひとつのまろ寝に宿かりしかな

原薄
秋の野をわけてや見まし庭の露もまたうつろはぬ花すゝき哉

路薄
ひと本に花ぞ見えける女郎花ひとり立てる秋の夕くれ

行路薄
穂にいでゝ薄まねくは秋のさかりとや夕の露もむすぶらん

古宮薄
行末にはみえし薄の袖ぞかし一むら薄の秋風

苅萱
まねく尾花にひかれ来ていつも見なれぬ[illegible]の夕くれ

蘭
川辺にたてる尾花かな[illegible]の露の袖ぞとおく

霧後草花
夜のけしきの風にこぼるゝ露に花の色こそ[illegible]

槿
ひとりの[illegible]花のうつろふ[illegible]朝露の袖

籬槿
朝かほの[illegible]のまがきにたてる花のかほ

月前槿
うき世をはかなきものと見る人の[illegible]

霧
垣ねそひしく霧のうちに見えける秋の夕くれ

月前霧
つきかげもたえまに見ゆる秋霧の[illegible]

霧深
夜のゆふぐれ行人の袖も見えぬまでふかき霧かな

原霧
あさ霧のはれまに見ゆる野辺の[illegible]

[illegible]
百種の花とりどりに咲ぬらん

[illegible]
咲花のいろのちくさに秋の野の[illegible]

[illegible]
こゝろなく[illegible]かくれて[illegible]

[illegible]
浦ちかく[illegible]霧のまよひに秋の夕入

庵霧　けふ庵ハ庵ちかの袖ぬかりふらすの霧もこほれてし宿(?)よそに晴れき

苔霧　まきはしかけよふくしそての住の庵にすみなれし霧のむしろに

草霧　仙人のふみ跡のゆきのこゝろこしわもかれて月にて秋霧や千代くらん

浦霧（海辺霧）　それふかんあはれの袖ハ二番ありふる露や深くなきしあらん

袖霧　さびしさにも行ぬれば深き霧ぬの袖しもゆきちふの岩

袖上霧　うきに秋の袖にいらさへの何かあれこゝかしの霧はつなくらん

　秋まふれち萩の花の袖よともいひふりよして霧の秋くらし

木の下露　そのかよの手枕のよにおきそこしてしさ露の恵れくそとふかけられ

虫　山深み木の下露ハ積ひしとふてに袖にも月の夜ふかくなかし

草虫　秋の夜の世をわたりわきゝりし霧とかれのとこやなかれ行きたる

初虫　たちまちも来し鈴虫の鳴ねとも行にしもまた待て虫の声ふかくれる

叢虫　ちりゆく袖の垣かの葉のまゝの霧小萩が下のむしもいきやもとのむ

虫恐　なくむしの浅の霧ハ秋くしの神かもしおいけきのよなく

虫怨　きゝ怖ぬ袖のかたをとりきて霧とはをとやむしの枕にふらし

　なくものとあつり思ひや声はふのよそのちかふし恐れて恨むる

虫声非一　萬たむきの声うちしとも此秋風ふうらとしてきす川虫のなく

　萬萩にそふ荒る之れ中すはいれ風をとこたへ人にうぶふまにしや時らん

月前虫　なくむしの思ひのほかもはかなくの手枕ふちゝの声もまたれらし

　霧ともに月の新たゆ人家の戸ふつまかけ眺るきす川虫のしろ

夕虫　これとくしと夕の霧のたちうかぶ浅茅ゆきとこむしのしよ

　そともに行まろ小袖く浅茅の夕霧にこれとし夕虫のしゐし

夜虫　旅の世やいゝふゆすらん秋もしやよそを行こゝろさしこゝろのしの声す

原虫　人もとゝね庵ハ袖そこにもしき荒れきて桔梗川むしの声れ枕も恋

松虫　よもすから小人まて何所ことにさむしいれ五十年の夜の松すえしふかに来

　浅茅生ちくさいろ也てゆくてふ露の霜小ふれ来て遊ぶまつ虫比声

鈴虫　ふり枕も浅さの袖かなすし夜の夜の月の光へいまもむしの声

月前鈴虫　露もしふかすたからしてしもすをおやにふさやかれそむしやむしゆく恋

鹿　小男鹿の浅まとふこし恋ひても彼の路く此枕もひとつやおゆしま

　命そうは心にふる荒きとゝの秋風ふ浅きそとふ鹿のこゑそこうふむ

雲間鹿　これまゆいふうもふれ山ふかし松の声せしも鹿の声いとうをふ声も

　誰ふうそしかせも鹿せも鹿の声ゆそふ秋の行らけの月

朝鹿　うれ浅まや知りひにそせ朝霧ふ谷ねたかゆらし鹿の声露

夕鹿　遠霧深く我ぬらし夕霧ふゆれと男鹿の浅るとゝかへしき

月前鹿　ふれわかりて谷の松風らくろへてし外山の月ふ鹿そあらしなる

尾上の鹿ハ　高砂の松のくの鹿ハいくよふうかふ浅れなきまゝかんつく

谷鹿　さいよみとふ浅きりや鹿の雨ふのしふ路遠ふてかふく掉鹿のしる

野鹿　なくしうの野まいのりあや此宋の袖ふ行ちしふ聞はしのゝちふ

田家鹿　聞とふみ宿ねまきくつましられつゝし門田のしうれ小夜かうきき声

海辺秋夕
明石かたうら山ちかく舟よせてこきはなれゆく棹しつくのこゑ
袖の露わかれし秋てもみにしむかなしきは秋のゆふくれ
のかれても猶やうきせにさそふ涙の袖そつゆけき秋のゆふくれ
うき秋もみにそふ風のたくひとやまつらん袖の夕露
わかれても猶待かへるたよりをきかゆふ露の秋のゆふ暮
なかれても袖つゆけしと思ひける秋のゆふくれ
身にしむは秋のみに入るとより思ふいつはりならぬ秋のゆふくれ
いまはたゞふかしとて又いつせん世のなかはなほの浦のゆふ暮

秋夕露
忘れしなんのいろいはうれとかなしくもむすふ袖のゆふ露

秋夕傍波
わすれてふ見しを袖のしつくはれはしき秋夕暮

深山秋夕
いほりふかく山のうへの袖のゆふ暮なきしく山のゆふ暮の空

故石秋夕
いまむかしちけるきつ跡さへしらはいはしくへのこゝろのふる里

水邊秋色
さとの花の身おいかへるの秋風にたれかなれや宇治の川岸

秋風
有るといへねの夜風秋ふけて夜のふるさとの荻の音せて

秋風歎野
秋の色を見れはちるふる秋風にたちかへる袖もあふにゆく

秋雨
さそふてしも花のうゑうちなかれよもすがら秋のちゝしも

秋霜
渡まさる世の月よりもなほつゆさきのもろくしも

路辺
秋ふとひきとしなかしは東路の秋ふとして重月の山風

年しの秋の秋ふりかれとや名もと雲かなき重月みやま

月
見ぬむかしみきらむ後の秋までも月のひのことぬよもこの月かな
何かすむらむこゝろよふ月のこやむろしれそしのこしみなからん
名さしやてらへうし露の身をふしてなけきの月のひとつも
いかにもいふかれは見ぬ影にかすめらん夜のかつかも秋の夜の月
きやまさしうかれいかへるなかひとや月ふむかつ露をのそら
てらし秋の夜のうつる浪ふちかへつうく光の月を見るらは
天のはら家をみ出るも月のいはし秋やうつらんも月
よしのさとこの宿みえられいはせの源ふもさやくすみたる月秋
宿とともにあはれ秋の月ふかく影すむの露は秋ふかくの浪
浪深きすみの木の影かとう葉と月もほのかなきりやかんにんん
なかむらふ浪しきしまやおもふらんさとらく月のえんなかせし
こゝろの庵上の浪の浪くしとちきら夜かへてもうしうら月秋
月かんそいなくをもこぬ庭の霜しもうれなきさし此映をての山
乃ての秋くことしの宿の苔の庵かんしよ思ふ月そかれしき

待月
出ぬるより初まく月もむとてるやうれそふきしこぬ月の影らんすへ

独見月
よふしし小夜その山を月影も待れかむとしもやうう秋うき宿

故月
名そてふたと秋待ましの夜ともなれやひとうよ深くもやう月を待

見月忘友
きり深く花ふ子限こし影かりもいろのくもの祝の秋の夜の月

渡る代とも宿ふたてなかん月ふまし影らしまた忘たふいゝころへ

晴月
晴わたる空にまくもるなくてかしはれるの月のさやけさ
かしはらしも新にしられて山の井のかけさへふかく秋夜の月
沫をきて清よる宿の新月新しき山の端のこる月とかしむかん

欲入月
ゆふきてみえて住かし宿とや山ノ端に月て入かるの影そはやなき
名ふしかふ月の夕や月のうちに梅のたそれの雨さあれ行さし

十六夜月
新しきみえる水も夜中のかけの月影てかれ臥のうけさくそらん
とし月の行もひもそもて見る新のへの空ふ思ひそ名んもるかき
かふもとくて夜まれしも思そてこむ月の夕のくれしそてるもあれ
千くのかきさてもへ見ふ宿のことふれ行今宵の月うち見るかき
むそのしよりし秋の二夜中のたゆかしふりとやけ物月の芸ましかし

八月十五夜
いはらうもはやうそ月の光りしそ嶺の名のにそのたふ侍てかしるれ

十五夜翫月
こんはくかやしやり月ん名ふしかしか秋の一夜ゆくの代ふなみもも

十五夜独思
情なかりみしゆかたふへていはるの行いはらの二夜中の月にと忘れし

有明月
てふよそひ庵く修のいはまとうまの宿の新もみれとけまし

十三夜月
なかはれの名ふ風もうし秋はる例の嶺のまんやこよひ遊もん
庵ふしれぬなか侍もてしせ夜いかれつひのむ月のうけ
十日かすりみよやこもさる月なるふ名ふかいきはいてしるも吏はれ

九月十三夜
なふ清見のうちいのなみもふ霜しこも及もぬいかふ新そてるぞふ

風月前風
そよさてし浜すふ入雲も浦見よの月かう霧るそ秋のよこうかか

雨後月
雨の名の雨もはれうく思月の清しふの露まふるかゝ出しらす

月前時雨
うきまの山うふ名その雄風ふうくへも見れてさきみれる月新
晴るよすの月の清しふの雲ましうけ雨しもてくる風のこれ雲

暁月
入宵ふ新てうまさる山の端の月名も雨さこそいはの清きのくそ

暁月露雲
月も名かぬそうへ二千もる宝月ふ清水なくへてか露は雲

夕月
月も組しはや夕さそてゆかへし夜中のいきぬねしとそてて

山月
みよしゆをもの名したふかとしまや嫌をとも山の月のゆか雨ふ
山里の尾上の月の夜うせふきしも庵てそおうけのはやかも
こるきと名と空ふてらしてと富士の林の雲ふこうける月の出るて
雲いらふかしし小晴て山出のかの名かの例うる月のはやゝ清

月出山
さふし庵や嫌をとも山の秋風小やう後清をしてといはる月新

関山月
こけ入もいとくもまも深き神ふ深山の月そしとものふ

路月
さ雨しの花神くいき宿ふうはくやいるの千種の秋の夜の月

旅月
うくれ南風雲もかいしの清いれやはうらの山の岸の月新
松うせのし名く山宿の木のうよりきそる月そ新さ出明見
山なう見岸のかしし此物しとそもとし月か宿る枝のしこ家

谷月
小雪庵の雲とふきしもる形の尾上の月ふ秋うせそふく
谷川の岸に見なふ松うせも月ふ清をむ秋の風派う紹る

岸月
松風のきふくもことふそもみるよの岸への宿の月そはなまさ

松月
さやかなる庭に見えけるかの岡の小草かうへにちるも月やかかるらん
杜月
谷の戸も苔むしけれは深山のひとりかの宿の月を静かにき
秋ことにひ同しくもみちや山の木の葉の色のこそ月はてらすらん
河原月
わけも見てきたるのこのそこに夜風もわたる月かけを
さえわたる木の間の月のひかり月をのみなかめて
杜風に木の下かけの月をまつよにもかけて見えそてらすらん
京月
とまる家もしき木の葉の下にひかりそひてき松の葉にさやかなる月のかけ
月前薄
わけも見えしふ庭もそよくに人の家見ゆる秋の月かけ
関月
ゆきかへる相の関のもとにて知るも名に聞くことの月影
わかれてそしらぬ旅の空にもすむ月のかけにつけてもこひしき
澄月
夢とひしなれはむかし秋風の夜半の月のさやけき
少しもそらのはれぬる夜は雲のかかる月そともの
橋月
見るまの月とりなかめてこの人へのあさむけしものかたし
橋上月
ともし姫の渡る夜すからは秋風に月もさやかに空にすむ
水上月
見えつきとまとふの水の流れしにうつる月の夜に
浜月
秋の夜の浦の波の音たえて夜すから月に夜の浦
江月
あはれとて入江の波のよるとしもなくや月かけのうつる
流月
さくら川せきの月の影のうつるもとにてなかるる
海上月
雲晴れて月にくもらぬ波の上にさやかにすめる秋の夜の月影
浦月
うらなみの月にうつして月のかけやかにのこりける
渚月
よるなみの渚にしける月影の秋の夜の床のうへにあり
湖月
みつうみのおもにうつれるかけそみえける月かな
河月
かはかせにさそはれてゆく月の影やかけてすむ
古渡月
わたりせのさしてゆく舟のかよひちにてる月の影そさやけき
秋の夜の月はこよひもくもりなく見えて舟のかよふ月影
湊月
みなとえのなみのまにまにうかふ月かけのみえそめにけり
花洛月
さえわたる月の光に花の都のなかはのよはの秋の夜
禁中月
さやかなる雲井の月のかけそへて九重のうちにすむ秋の月かな
社月
神かきの松の木の間をもりてくる月かけきよき秋のよの空
社頭月
神垣のひかりそひけるみやしろの月そさやけき
古寺月
ふるてらの軒もるつきのかけさびて秋のよふかき鐘の声かな

山家月　あれはてゝいくよの秋か古寺の苔むす軒のもりあかす月影

田家月　守るとも見えし田もや深しる山陰ふかけ稲の水のこほれはそれは

庵月　秋の夜はけしきのいほのさむしけれ月よりほかに人もなし

庭月　露むすふ草の庵のねやとしもみてもそめれて出る月をまちしも

園月　清かりし秋ふかき霧のあはれにも秋風のふき払ふ庭の月を見るに入

旅泊月　浪のへしとうきねやたのむ園の千とせもさらしらす月待まとひしける

月前鷸　みし月はいつのひかりもわすれしとなれしふるさとをとふ雨のけふけれ

月前獣　私かのうしやいつし庵の清のたふけてしよるとこそ月ふたゝひそ鳴なる

月前猿　さやかにもたし山のかひにかゝる月をうつしてもなとさひしらふ清しら鳴らん

月下替　庵ちかく人ひとりすむ山の月かけに影ある秋さひしけれはしら鳴らる

月下懐旧　しらぬ人もあるや古の秋と見れは月ふかしものゝふよりもとしもふの宿

月催涙　むしの名におも秋の旅の和かの月をさむとやかゝてくやるらん

月前鏡　むしろかきの上風を言ふなる月もこのかにて月も鳴らん

月前衣　曇らぬ鏡とそ秋のふちのよはのこちらし何ふ羽の夜の月

月前泉　月影をもらはさまやもやよさのこほりもおもひきさん

月前鶴　さゝなみの末にくかをいつまでかのきかの月の影なれやらさ

月前擣　さよ夜の月の影にきて雲の月ふもそ寝なの清みの〳〵ゑ

寄月懐旧　ふる里のあせしのさとのあかさきみし月影このなかのもちしさ

寄月旅泊　秋こよひなかはけふゆくしかの宿と月をふるさくもかしの根

寄月秋　むさしのや尾花か袖のちさとしもなくおもしろく月のけや

寄月恋　あさ秋はてゝ月影にうつろひし清らの月の影やしもうとしかくらし

寄月祝　まとゐしてあけの新月をこそにらふそ山川ふてこれ月のうたうかへやなし

對月言志　鈴ふかくさしこよひ仰板の木の高くもとよく見る月の影そよるへかね

寄月述懐　せしとせも秋もとにて夜の月のほかにおもしろきかな今宵し月の外にも清く

寄月祝　侍りしむかしにあらむ山の端の月ふかくもひかへさりくる我宿

こそせよれ秋も長きいくとせひとつの秋とも月わかき流るとても八

秋は照の月をかしとも鳴りのかさ遠のちぎりもしも長き月の外け

よろはしとちよのこよひの月影や移りなきゆきふ流らん

寄月旅客　露ふかくなきよのねさめし久方の月の外にきし中の外なしの松

初雁　かなふそしもこゝろも夜さとの秋風よきそこれこそてつしのいゑ

初鳴雁　鳴くらいつしの声やさこのうらにゆふ枝も空かそし月に鳴

夜初雁　初さにこさる花かさのそいと仰よるを月ふかりさもふうての松

山初雁　雲間越る山とのうね風やさむうかしふてけるしもうもう鳴かなる

月前雁　あたふうくやまとしたもかふさきうん清らや一しの千さあらん

雨中雁　これもまとくのふてしられぬ月のうちのこ清ゝふかけし一つの雲

暁雁　よるをそふ月の雲の外ものとしてこゝろも一しの秋やきならん
秋の行かん雁さもこゝろよらふに清も月わたもふこゝろ一しの秋
よこめとのこゝろて空に外の雲つ清うもきみし一の夜かちのね

石にせく水音

はやせかはしはしせきたえしの跡ならしすゑの岸の陰ふつとしむるか
みなかみはいつくともなくなかれきてみちのきこゆる
たつ秋のたれかゆふひにさらにかなしき夕霧の
秋深きゆふくれたちはるかなる

夕霧
なかめつゝ秋のなかはの夕まくれ

山霧
山深くかくれし秋の霧のまにゆく夕日の影そのこれる

関霧
あふ坂の関路やいかに霧こめて行かふ人の音のみそする

河霧
もろともに流るゝ河の霧の底に

浜霧
まつしまやをしまの浦の浜霧にあまのいさりひほのかなるらん

霧隔舟
いつかたへこきゆく舟のあとならん秋霧こめし川のみなとに

擣衣
こゑすみてよさむの月にうつ衣

擣衣声
夜もすがらうつや衣のこゑきけはさむき秋の風そ身にしむ

河辺擣衣
さよふけて川辺にうつか衣こそ

旅人擣衣
旅人の宿かる里の夜さむにやおのか衣をうちもやすらん

月前鴫
秋のよの月にはたつる鴫のねにさらにもまさる夕くれの空

暁鴫
しらみゆく空にたつ鴫の羽音をきく

暮天鴫
ひとりなくしきのはねかく秋の夕暮

鶉
とふ人もなき深草の里なれや

野鶉
をはなかる野辺の夕くれ鶉なくなり

江鶉
ふるさとの入江にうつるあきの夕暮

古石竃
ふるき世のみかきの石にむしのこゑ

菊風
百くさの花のなかにもにほふ菊

植菊
うゑおきし籬の菊のうつろはん

翫菊
いくとせも千代もかはらぬ菊の花

月前菊
月のよにかをるしらきくの花

菊帯露
露なからをりてかさゝむ菊の花

山家菊
山深くすむ庵の菊のはな

いくとせ[illegible]かさねて[illegible]はなれすて[illegible]のえも山路の菊の花そさきける

山路菊
咲きにしの花のえにやまのよの[illegible]山路に流れん秋ハとせし

水上菊
さ川のおす[illegible]にさ[illegible]きし[illegible]菊の花[illegible]

籬菊
朝日[illegible]きし[illegible]の菊のまかき[illegible]にほふ[illegible]

[illegible]菊籬
[illegible]つけ[illegible]しく[illegible]ハ[illegible]菊の[illegible]にたひのりおも[illegible]

老菊
[illegible]の[illegible]ふかく[illegible]のきくや[illegible]

菊花盛
[illegible]小[illegible]菊[illegible]菊の花や[illegible]

[illegible]残菊
[illegible]の花[illegible]やもみちの一[illegible]

菊延齢
長月のふかく菊[illegible]の[illegible]もちきて[illegible]

翫菊延齢
さし菊の花の[illegible]に[illegible]やもみ[illegible]

九月九日
[illegible]花の[illegible]菊や[illegible]の秋の[illegible]

暮紅葉
も[illegible]のこ[illegible]菊の花の雲ちらせの秋のか[illegible]ひとつ[illegible]

紅葉[illegible]
のこりくしくれと[illegible]もちる[illegible]紅葉の[illegible]

初紅葉
[illegible]秋の日[illegible]のそむ[illegible]

紅葉[illegible]
そめ[illegible]紅葉の[illegible]山の紅葉[illegible]

紅葉映日
紅葉[illegible]の木のまの夕日[illegible]初入のもみち[illegible]

月前紅葉
こきくれ紅葉の木のまにもる月の[illegible]

紅葉帯霜
[illegible]ちしほそむる[illegible]

紅葉留雨
[illegible]の紅葉に[illegible]やひろの千[illegible]紅葉[illegible]

紅葉添[illegible]
[illegible]神の[illegible]

岩紅葉
[illegible]の[illegible]もみち[illegible]の紅葉[illegible]

紅葉映水
[illegible]の木の下ゆく[illegible]夕[illegible]紅葉[illegible]

紅葉浮水
水[illegible]池の水[illegible]

里紅葉
山深[illegible]の紅葉[illegible]

遠村紅葉
[illegible]秋[illegible]のもみち[illegible]の一むら[illegible]

庭紅葉
[illegible]秋の[illegible]のこと[illegible]紅葉

松間紅葉
[illegible]の下[illegible]もみち[illegible]

野亭[illegible]
[illegible]菊の[illegible]のこと[illegible]

暮秋
[illegible]秋の[illegible]やのこる[illegible]

暮秋月
[illegible]菊[illegible]秋の[illegible]の秋のくれ[illegible]

暮秋雲 [illegible]

暮秋扇 [illegible]

暮秋雨 [illegible]

暮秋時雨 [illegible]

暮秋菊 [illegible]

月前秋 [illegible]

秋朝 [illegible]

秋山 [illegible]

秋杜 [illegible]

秋野 [illegible]

秋水 [illegible]

秋川 [illegible]

秋夕 [illegible]

秋獣 [illegible]

冬之部

初冬 [illegible]

初冬時雨 [illegible]

初冬暁 [illegible]

時雨 [illegible]

夜時雨 [illegible]

暮時雨 [illegible]

寒時雨 [illegible]

星後雨
すれはふ人いとゝせていく夜ゝ志くれてそゝふるその庭まはと

落葉
はそはれと亦かの郊をふやちりかゝりその千種ふにうせそ吹
吹風のいろふちれとうはそふへんさしてもおふにもろき木葉かや

山落葉
千入まて深し白露かかゝるにもろくもちりゆく風のまみち葉

落葉混雨
そむる毎月に手かふき松の風ふ時雨ころちるや木の葉降らん
木葉降くすかなくもなかりつゝ神無月時雨かはそふ風にまかせて
山風の浦やはそふかゝりしふけてのこのもしも時雨ならし降

岩落葉
はそひこし風の行末やこゝたゆくも岩かけふかく積る落葉そ

路落葉
雲かふにせんなの人の踏分ん落葉たともやうのあとしこゝち

窓落葉
時雨うし何かはうつ神の秋の内ふ落葉ましてぞ山うせすしゝ息

家落葉
吹風はさそふ志たるまとの小夜ふかしひとり落葉の音そ聞しき
垂路ふ雲ゝうせんふ埋もてし木の葉そ深き庭のまて庭

残菊
雲ふかれとしこゝろかしふあかきてふしもうれと白ひそ猶残る
さかりのそ秋のかくしとうつ霜の深むふはそのきくのひともと
色いまそく移ろ路うつしの霜枯ふ枝のこりうき名残る

残菊帯霜
冬枯しすうきの菊のこゝ菊ひともとのこゝろいろそ惜しき
わかまつそん称なあき残も秋の行末枝にをや袖ふ匂ふさく

田居残菊
枝のこゝろひともとも菊たゝ仏ゆれや人のもゝ菊もかゝらくまうきまる
はやる夜の尾上のかねやいく里の霜枯の枕ふ聲ひゝくらん

霜
尾上霜
冬枯のまつ行の尾上とれともの霜枝かさねそふれさむきさ

田居霜
志庭にはふかゝれと秋く庭ゝ家の稲葉霜ふかゝるら宿そ宿

草霜
いつかもる草にも霜のこゝろのもとなかしをかり原の霜わかれ

篠霜
冬こゝへ秋ふはくうゝくも白たへふ霜枯にさまさかのさゝうさき

竹上霜
新はむく夕しみ夜の月の色おもやまの葉へ合ふ氷るちき霜

冬草
吹風の音は冬かれし垂霜のもふ枯行まての草枝なしと

冬草路
冬しぬの霜のかうりのかもなりし霜うれと庭るの人の草枝とふ
霜結へてしひともとし秋の草枝の庭に志き霜うれのまて
さけかりし雲の跡ゝうかれてて袖ふけの落葉むるふまり

枯冬草
大かたゝきのかりのたらす霜枝くてかゝる人なくしにうち淋しさ
冬の野を霜ふ霜結へくうし志でてしたゝ跡りもえうきよりの下草
ゆうの名の冬野のかゝいゝ霜枝れの下葉のこゝやもゆらむ

冬芦
浮沼をすてうれ霜にしはらぬ池水ふかきしあたそ志ものかうしのひと村
難波ゝし芦の枯葉ふ霜枯れ方うさもきうい風そ吹

冬花似雪
白妙への花香もとちふ風うい風や芦日はうらの霜かこそくん

氷
山川のもやは流すもいはしかてらひやはゝ流のいるをうね

流氷
ふきとを吹山風ゆさむゝ流のへ音を添むし氷もりふ雨の山川
山さむゝか流ゆ川流の音はやかて氷ふむもそかゝれかけれ

氷閉流水
山ふるこゝ山ゆうねふかくまる流の音ふ深しゝ氷ふむもそかゝれかの流

湖氷　よの花にみきはやいとゝ氷るらんちりてさかるしかのうら波

無樋氷　はしひこしかけひの水ハ氷るらしゝらはれてさひしき山風

冬月　かさゝきの川ちさの空わたりやなからんよもすからの月の影のはやさ

とけしぬ我すれ夜の床のさむしろにかゝる神の月そ氷れる

旅宿冬月　草たかくしも相のとむらふ笑花月をとそや嵐ふくらん

冬月　わか袖の露もはらくまさりつゝ旅の庵の月に霜やおく

ホのうらまろ影も若葉の霜のうへに氷とはるその夜の月

冬夜月　冬のよのさえ行まゝ一葉のてらしにもかけのみえつゝ月のなきかけ

河冬月　あとうなきしらむもさやけふかけみえつゝ川風にちるきえの夜の月

冬暁月　冬の夜のはちかくわかれし秋よりも清き河のむかへに氷る月影

見しし秋の月さへ分ぬ渡るひのたえまの霜に似たる月影

冬夜残月　白妙の中の浮けるもなきさむし霜よりの月のこりあかの空

千鳥　それとなきにゝ面にこそ秋川風に千鳥たち寄とひて千鳥鳴なり

かりの夜のかたこそよみにしらぬひとつかけて夜や更けし

いつはらぬ友まちすらんとある跡くのよりの空にたてくたかく

をとめ清ま羽ふくひとうつしや川風のふけ行夜半に千鳥鳴らん

暁千鳥　小夜千鳥立浦の月のひらはてもとひし妻まちうらみてやなき

ふなきなきとの旅にやたちの浦のひらけの月に千鳥鳴なり

夕千鳥　なにはえもなつ妻かけに生や川波の夕かけに千鳥とふかけかれし思

夜千鳥　うき雲すむる月をやなるゝらん火のほのかなるかけのよる八千鳥ハ

夜ふかくも汝ぬる友をまたれぬきさして鳴きわたる川くまとなきつゝわたる

浦千鳥　ひくてゆくの友を見ゆる立千鳥まくとてうら浪やよせ来らん

浜千鳥　むかしより立わたへるくゝ月影も清き浜べに千鳥あそふ

桑千鳥　千鳥たゝく浦の浜やかすみちもとなく立しもや流れたかき

川千鳥流れにかれつらやはなれてまてせる汐風さへ吹よる

浦のうはうまつ川にしと大よどのうらみそのやら千鳥なくらん

水鳥多　水の面にちりし紅葉の色見えてこほれるかふ池の水鳥

鴨　うきなちる葉のちりこゝかゝる山川に鴨のあを羽の色やそは此影

網代冬　さゆる夜も床ハ川せの波のように氷と成るく網代まちぬし

夜網代　川風のさむきしらのえ清ゆゝくやひかるのようらと行かん

網代もふけきよく深やかれくなき夜さゝきさえ氷るもの川をせ

網代守のさむきふし網代守ふいさよふ波のうちに川瀬

川網代　なほさはなれまたにかくことでのたなのこ川に網代たちし

あさのちは網守すらふしにしまたのえにて網代ちけしとて

霰　霰たまにせもうらしき足へきむきやうふるたまあし霰そてけるとそ

ゆくも落るもきのやの音のゆふそてに落くの霰ハうかひて

こしきたゝし行くも新まてさゆる夜は霰のたゝとらてそ冬されん

吹こえて霰ふるも冬の夜のしらの行くれにさゆる日ころの風

ゆきとなくおもひと冬さて北の葉の音行しふかる行く風

霰残夢
まさきちる外山のゆふしくれはれてしからまたの松へに霰ふるなり

篠霰
はそてとれし蓑ハ結ふ尾にも花にちしくはつれの音そ残れる

篠上霰
旅人の宿やいはしかりまくらかのは京の霰ふるよりかり
はくの世をかまへひろかしとゝるをかりのこされとも霰ハ霰成ふり

栢霰
樹雲はるそしふ青竹の山風に霰ふるまくいはふのはしもちる
はそとれも霰やいふれのも栢さとし枝ふ吹きりちりてそ

雪
かりはゆふあさる代そへし窓の外に雨の音そまさりゆき
ゆきふれいかはかりふ庭にも雪とし一そよしふかさ哉
吹風のたよりにかゝるにいかほ散りしはやつゝのちらすの音そ
んはりしふかくもしてこうしはゆのふ雪ゆ木ともの庭の神垣

神垣
ゆんはくしたふるかれてそしあくもこぬふ花ふかゝ何庭の神垣

庭神垣
はえんし夜の嵐の露の志川ちはふ神きもとしこれいまその神垣
庭の雨ハ霜ふりてとたうりすそ先てまもし落葉生の公卿の神垣

逐日寄深
瀬しさゆいまて五月のなかつきかも露までう時の音のこらふ

寄草木
ちりきもとしかも花とやみすとし青柳の立ちふきも山にかれけ白露

寄雲
叶る露ふものゝ雲よりもうてん老もれ山は風の音もみ雨ふし

寄杜
かきたえてかりふはなかきる手この宮の山や深くはゆめる

寄松
夕子松の枝もりて風露流しくて花ゆらかさのこととのまるも色

寄山
旅人の神はむそうしはしあさの宿や京ふ流ゆるとしふ雪

原雪
露はゆる山もとかけて音もれくかふのたちの山の志ろたへ

関雪
ふうこうん跡さへもなしはそえれて雪はそふたなかのふ篠原

珍路雪
旅人の行もこゝるも跡こえてしまふたしふねかふしはこのせき

海雪
草枯いはそふりふいむ志てまし神さらふ篠もりて宮深くして

当浜松雪
ちら秋のなみ風にも世にかゝも松しかや沖ちらのとゝ川の雪のらる忍ハ

湖雪
志かのつもりや氷まさり湯もよるかとみきまるふ浦の雪の音のかゝ

湖上雪
氷りおりみきての湖の志らむせしく雪ふきよりて志賀の浦ちかし

浦雪
むかふ雪ふりきはの浦風やよせてしつゝかぬ浦ゆらしん

古寺雪
神世ふくまもまつしむかふの雪のよふあやしのほりのつかね

古寺雪
門とちしもつふよまきさし松をてし雪ふかき深むすたる庭

遠村雪
ゆう流とくかれかさて朱のかふそふし望こらえけゝたる雪やの山もと

庭雪深
風もてしふ枝よりふ落てし庭の雨の木かちとしいりもし流ゆる志らふ雪

雪似花
咲きもちる衣ゆゐけ見せてく梢よりこえりかくし中ちこの花のかよせ

雪中交友
あふおふるくかでとん名たは遅やれかえ友どもえてるのてしの志ろしむかき

歳暮雪
かりうてしれかうこのゝふのふ宿もとうれになかゝの川さらもはむもき夕ふ

舞姫雪
路人の入来てまおのかゝ松ふかくれうねとしや雪の来り月

朝霞風
路人のうくる梢やはむうふんきゝもかうちちるくるしゆき鏡かり

路傍独夢
路夜日も夕や梢ふ神はえてもかくのしみのかとうへ忘ぬそうしゃし

炭竈
たきて落そてく年のはむも行ふことてく松の深了秋のなれの山炭の夜

岩かげの梢や雪のきえかへてかげふみよくる小路しほる人

風に岸の梢の小雲ちりもせし川とまる夜の月のかけ

星辰電
螢火
篝火
螢火閑談
秋示
早梅
宅内早梅
歳暮

きらめく星ハうち散たり流てし出岸に涼のかけ
たえしとよ梅も年をへてまさりにけるものを
はえまさる外の雨のあかしさもるもとしもねやにうつり螢火
螢火のもえしのうきよのかたはらにぬれてぞまさる
ゆかりの西桐よの月の秋のうちわけてふ秋かぜのまよそことし
星かけて庭火のかげもとのゆくへ夜の西桐にほひてこれ柳乃のこし思
ろふうかの見たきよきこもにほひ梅のえんの間しみふもはれしは
小かいまそも花ともはしに向ふのふる年のけしきけふかしもそめし梅の花
百年のすゑもあだいこ花のうちかほも身にそかしむ命さきし
いとはしふるの月日の花たかはさらにをとろへし年の花あり
けちえ風のかそうふかの花の匂ひともにふる年やすがにかくなむ
世の中よはる事のまにかハしはかのもを年よりもかけて柳のえん
ことしふけぬ世ハいとなるもふしてよはひの年のさやまゝまはし
ちりゆく世のこともはしかしこまるふ年の花のまよかなしき
笑しまふ花やもひしも年のもかり身ハ知しむいとふ花の色のみ
一年のなかりて身ハ声ふ積りきなまくとこん花のすゑやましく消し

歳暮雪
歳暮澗水
路歳暮
閑居歳暮
宮家歳暮
老後歳暮
除夜

年ふかくくれゆく池のこのみかハゆくりなきはちるとかはゆくふかし
舟の身ハ三十年けるとこゆく年のくさくれ桜かうりにてかいかんれ
いくとせもきけり年やめさん花のけふのまちかへてかくふひにこのほか
老の行年をかねて小流とのゆふ雨ふる花かさしてうけこよ
花かけの世はいとゆふに深山やせん暮の年ハかくしむかしの
暮かへ年の名残のかきしかなれともさうへなきゆかしきれ
かやの落葉にのうこしかいかなにけしのかへしのそ空をこと
ゆくとせもとまるかたのそともまでいとまさきみかの年の花の色
ゆくとしもとゆくかたもあまた清まてさん年のなごりやいなかき
たかこゝくい今年ハ未の物ともかれたれはかる年の花をちる
路なき川の水とりの水の氷やもさゆる年のなか老のなかを
かくもとにかれん物をかせふかさ年の空やせきもとしゆくまで
あらしもせの年のいそきやさむかせんとりくゆもとかへしさても
山里の花の年のこゝろもさかりに年のなかにふりにけり
老の身ハまたゝくゆく年ハかへりて花のなさけに今年の花
老の数かそへわすれしはかゝるかなかにゆく年のなくしも
除夜もも年いとまのかはりに月花のなりも年のなかしも
積りこし人やなるかなかきりにふれしもをなを年のなとはれ

十月廿日 天気好

冬夕　神無月夕日の入江の影かしこ志くれぬ日も紅葉うつろふ風の[illegible]そよそよく

冬月　冬枯の[illegible]の木の下萩に月影さえてしくれぬ風のおとしれき

冬雪　行とし[illegible]の浦の川風さえて[illegible]日も[illegible]

恋之部

初恋　志らぬ[illegible]初めの神の[illegible]におもひそめてしこれ

　恋は[illegible]これも[illegible]神の[illegible]の[illegible]思ひ[illegible]

　[illegible]人[illegible]忍恋の神の[illegible]

不言恋　うき[illegible]おもひの[illegible]ふ神の[illegible]なれ

　[illegible]

忍恋　思ふ[illegible]の[illegible]思ひの[illegible]

　恋し[illegible]思ひの[illegible]

忍久恋　[illegible]思ひ[illegible]

依忍難逢恋　[illegible]

望不逢恋　[illegible]

恨人恋　[illegible]人の[illegible]

近隣人恋　うき中[illegible]

帰雲書恋　[illegible]

再会恋　[illegible]

祈恋　[illegible]

被明日恋　[illegible]川[illegible]

被仍来恋　[illegible]

老後恋　[illegible]

別恋　恨わびやまれ衣たちわかれしにも人のはかなさも

忍恋　いしくおもふたのむものから心をそ秋く袖ぬらしつゝ涙もて下はいはぬも

不逢恋　下紐のとけぬは何に前の世にいかなるちぎり結び置きけむ

なからへて誰かはしらむ年月の花のかれぬ夜床に

き人も思ひきやいくとせの末もいかにと中にも契りかはしけむ

逢まれしとはかりのも絶たえてたゝ人の心をしたふ果もうし

うきていつも秋まちこよひたのしみにたのむ君の心とやとこそ見えけれ

祈難逢恋　いかにせんこのかみもまもらぬゆふたすき逢せのはかなしと祈りつゝ年

来不留恋　涙さく袖にもちかう逢ふ夜半の名残のあさき人の心のうちはかなきを

待恋　たのまれし人のこゝろの夜衣きぬにかへしはやたちまちの月の草

恋待恋　まち侘び涙をつくし水のあかつきの月のはれやらぬ

夕待恋　人まちてひと月にまつ夜半の空の詠ははかなくれゆくらん

逢夜待恋　かたのうしの人の此の世にはなれやらぬに何か思ふらん

逢恋　うき中にわかれし思ひのけふ夜半のうき頃も見る

初逢恋　うれしくも初めて逢ふ夜の花の露のはかなき名残を惜しき

久祈逢恋　ことひかくかけわたるひと夜のはかなしとぞおもふ

明くる朝こそわりなき恨のまた夜半のはかなき契りなりけり

旅宿逢恋　ちぎりしやこよひの枕袖ぬれしもゆめの一夜の旅寝のちぎりをは

別恋　なきとめても思ひたえなき別れの心をいかにせむ人の面影

暁別恋　うき中にわかれてもかくばかりいかにとこゝろをたのむまてそはれ

後朝恋　わかれてもまたこそ逢ふと思ひつゝたまの緒のよのはかなさに別れし

後朝帰恋　横雲の峯にわかれて思ふらん今朝の涙は夜のしるしなりけれ

遇不会恋　別路の夜ふかく帰る恨をもむすびてぞたまの緒のはかなき

結ばれしけふの夜のはかなさに人の心をたのむ花の露のあき

さそひてもきその夜の月影にもかはらぬ中川の宿

夜逢恋　君をこそ人の心の定めなき世の契りをたのむ頃の夜の月

面影のこる中の朝の月をまつ夜のうちの夜半のまた

恋こひし夜の面影をまつ夜の心のはかなき

こひ頃の夜の面影に人の心をおもひそめしとは

恋ひ初めしひと夜の契りの露にはかなくも夜のかたみ花

衣立恋　立ちそめし涙のぬれ衣そのまゝにたえぬかはらぬ恋を思ふとそいふ

歌合恋　うちみてもこひしきたのみ袖ぬれて涙のかゝる袖にいはれ

逢増恋　恋しくも袖のおもひはいかに増さりてそこをまたぬかな

寄月恋　ちぎりしやそれとはかりの人の月の夜半にかけそめし心のかゝる袖のひま

移香待恋　よしさらはさえしふすとも床中にたゝふる袖のうつり香もかな

厭恋　なにとなく秋のゆふへにかけてたのむはかなき人のこゝろのうちをしられて

いかにせん我のみひとりおもふ事のいはぬもしらぬかたもかなしき

人目のみしけき山路のかよひ路にたえぬおもひのしるへともかな

被厭恋　いとふなる人のこゝろにさはらすはあはぬもうらみなとか恨みむ

後悔後恋　なさけなくおもふかたにもなからへてわたる月日のかひもなき哉

近恋　ちかきはかりをたのみにてうき中川のわたりかねつゝ

海月恋　水の月いさゝかうつる影にのみこゝろはかりそなかれゆくらん

行恋　うき人にこゝろもゆきてとゝまらぬ行末のなをしるへともかな

行恋　ひきかへて人はわすれし思ひ行末の名をしたふかな

初恋　いまはたゝおもひたえなむとおもふにもまたしられぬる心なりけり

忍

忍恋　うちそよくかせにみたるゝしのふ草しのふもしらぬ人のこゝろは

おもひねの夢にもあはぬよるのまにしのふる袖のかわくまもなし

互忍恋　紅の袖の涙をつゝみてもしのふる心のいろにいつらん

忘恋　われもまたおなし人のなをしのひてはいはぬ思ひのほかにこそあれ

難忘恋　かはらしとたのめし中のうき事もわすれぬ物をおもひこそすれ

もとはしもしのひしともにたのみしかひとりおもふのむかしなりけり

ま(?)よそにふかくれなゐの雨露のなさけをたのみしなれてわすれむ

恨

恨恋　草のはのつゆのよすかに身をかへてうらみは秋のよはの月かけ

恨身恋　かゝりける人のこゝろをしらすしてうらむる身こそはかなかりけれ

被恨恋　うらみこしこのかたになほおもひそめしなかこそつらき心なりけれ

恨絶恋　うきにこそ思ひしすつるかひもなくなほそこひしき人のおもかけ

うきをもしらぬ

絶後恋　かそへすてし人の心もなかゝれはとはぬもうらみやるかたもなし

月前恋　よそにのみうつる月影の雲のうへにむかしのかけもとまらぬものを

経年恋　とはしとて契りしことはかはらねと年をふる身そなほうらみける

春恋　わかれてはたかはかるともなく身をさらてなき物をこそおもふ

夏恋　すゝしきの夏の夜しらぬ袖のうへに行末の月そやとりける

秋恋　しらきくにうつろふ花の色よりもはつかなるそのかひこそすれ

冬恋　まちわひぬ秋の夜なかの虫の音もわれにかはりてなきあかすらむ

よしやとふむしの声もひとつもしのひにいかゝわすれけん

涙こそうきを秋風にみをしるかたに袖のうへにしけれ

冬恋　しもこほるやとのまくらにおきゐつゝかさぬる袖の涙こほりて

夕恋
くれかゝるとちきりし年も末のまに流れてかはる人こそありけれ

夜恋
待よりもうきは見ぬまのさよ衣かへしてもなほ夢そはかなき

隔一夜恋
へたてつる一夜ふたよもかさなりて中川やうき瀬をわたる心ちこそすれ

山家恋
みるたびに深山のおくのまつの戸はいつもさひしきすまひなりけり

相思恋
わかれてもおなしおもひのむねの火をたかひにもゆる中とこそしれ

等思人恋
待ちいくよのつらさもしらぬかひもなきおもひのみこそまさりけれ

寄中恋
一つこふるこゝろのうちを人しらはいかにかすらむたかひのおもひ

尚稀見恋
いふとみるまにはてぬる夢のうちにうき人のかほをしのひてそみる

寄天恋
うきへの人の恨もそれとなく空をあふきてなかめわひつゝ

寄日恋
ゆふくれの人のかはりもあふことはありとしらても猶まちわひし

寄月恋
いくつのことのはにかはるとも夕附日さすかけのなかめもしのはれて

夕附日かけしのふともかひもなし
かくてもあはぬ月の夜はかり
なかそらにひとりうかふかくもの身の
きえぬおもひをたれにかたらむ

寄月恋
わかれしはおなし月のかけなれや新枕かはすこよひの空の
ふかき夜の月にうかへる新枕かはしてもなほしくるゝ袖かな

寄星恋
我ならぬ人もかそへてゆく星のかすならぬ身のなにおもふらむ

寄七夕稀恋
わかれても又とせのへたてにはかけてもいとふひとよなりけり

寄風恋
心ある風にもいひてつたへはや人のつれなき袖のうへまて

寄雲恋
たちかへり雲にまかふやおもひきえぬうきなのみこそ空にたちけれ

寄霞恋
いくへともしらぬ霞のうちにしも中空にのみたつ名なりけり

寄霧恋
なかめてもいつかははれむうき霧のまよふ心のゆくへしらねは

寄露恋
うきをのみ露のいのちにかけつゝもきえてはあはぬ中にやはあらむ

寄霜恋
きくにたにおきうかりけるしもの夜にたれかはまたもひとりねぬらむ

寄雨恋
そほちぬる袖のしつくもかひなしと雨よりもまさるなみたなりけり

寄雨相恋
たのめてもこぬよの雨のふる郷にたちまちしのふ人の心を
雨ふる夜のおもかけのみそひとり見るなれ人のこゝろのうきをしるとも

寄霰恋 まち侘るかひもあられのはかなくもひとり寝覚に窓うつ音を
寄菱恋 うき中にたえてしら波菱の浮葉とふ人もなきえにしのみ
よしとよしやなか中の契のひの心しれい宝よりなにかうらみむ
寄秋恋 秋かけてかはらしとこそ契りしにいかに色かへ行中そ悲しき
寄嵐恋 嵐のおとよりもまさる思ひかなうき人のつらさにそへてふく音
寄朝恋 あさ露ともろともきえし後はたゝなきとしるらむ恋にしぬれは
移り香ものこる涙の朝ねくみかはるらむ人もしれなくあらぬ事
寄夕恋 かはりゆくのとなきことのはにまたもゆふくれ身をいかにせむ
身にしむもいろにいてえし人しれぬこゝろのうちのゆふ暮の空
寄夜恋 しのふとていふ花もなくいよるしの涙やたえて袖にのみふらん
寄山恋 小夜ふけてひとりなみたの衣手によしやきよくかはらしといふ
あたのむかしの後の山ふかくのみ関より外のかよひしもなし
寄旅恋 ゆくはるは待てしたれうき人のむすふ谷の下水たえてむすふとも
人しれぬ旅の日もかさねて思ふ山の松の中ゆきかふ
寄岩恋 あらふ身や人のこゝろの秋かせに岩のはしたなき色をや立まし
寄湖恋 うき中は岩くの宇治の川ともにたえてなれにしいくよ
はまをうら人のこゝろのおほかたの末のふかきうらみにあらまし
寄橋恋 むかしわかとこ身をかくるはるとのかよふ道のちきりたにせは
はかなきはうきたる人のこころの宇治橋わたしかけて恋わたる

よひしのかよふとのみそふるわかこゝろにのみ絶ぬ中の人のうきをいかにし
寄水恋 思ひしのようすなき袖にそくゆくえまちかねてすへまし
いかにしていふたえしの中にかけのかけてたちぬれる人の心のうき
寄池恋 まつほとにたえし心のあさ水のかけはなれゆくとなにもなくてかはらむ
あさましやあはすひとの思ひそく池水やもしとかくきえはてん
寄江恋 つれなさはひとかたならぬあさ江のさはへの池のあはれはそてをいかにせむ
かくとたにしらせまほしき江の浪のこゝろにかゝるうきなそとしらせし
寄瀧恋 人やしるすみなれは思ふとはかりのそらの瀧のいともふかき
寄川恋 うき中にはなれてきえかはれの川の瀬の音をあはれてしれ人はちか
あはれ川わたる瀬の絶ぬ中のむかしの人のこゝろのかはるあふ瀬
寄浦恋 かはしらぬ身の恨も浦なくもへてうらみしかへる浪のゆくへは
寄淵恋 かりそめのこゝろの淵のふかき瀬にあはぬ恋の深さもうし
寄海恋 いかにしてうみの海の底よりのおもはぬ浪のうみのうらみかな
寄浪恋 いたつらにうき浪やかへるへしおもふ人のみなもとのすゝしくて
寄泊恋 あさ浪にかゝるうき舟の沖にいつの泊の浪にむすふ契の前ゆくへも
よるなみのこゝろのうきを泊りてしつのうき舟にかくれ
寄石恋 いかにせむ浪のうきにもあはれひとりかひなきのうらみ侘しさ
さもこひ侘石とたかひしともおもひ思ひ中の人へやよしとふかれしい
うき中に契の猶ひさしかるへき石の火のおもひしいつく人にこそまし

寄叢恋 [illegible]

寄田恋 [illegible]

寄稲中恋 [illegible]

寄竿恋 [illegible]

寄垣恋 [illegible]

寄籬恋 [illegible]

寄屋恋 [illegible]

寄井恋 [illegible]

寄床恋 [illegible]

寄簾恋 [illegible]

寄草恋 [illegible]

寄蘭?恋 [illegible]

寄下草恋 [illegible]

寄葵恋 [illegible]

寄菊恋 [illegible]

寄薦恋 [illegible]

寄萱?恋 [illegible]

寄浅茅恋 [illegible]

寄蓬恋 [illegible]

寄藻恋 [illegible]

寄泥縄?恋 [illegible]

寄海松恋 [illegible]

寄竹恋 [illegible]

寄木恋 [illegible]

寄松恋 [illegible]

寄檜恋 [illegible]

寄槙恋 [illegible]

寄桂?恋 [illegible]

寄樹?恋 [illegible]

寄橘恋 [illegible]

寄柏?恋 [illegible]

寄桐恋 [illegible]

寄杭恋　ゆふまくれいたくこの木かけのさへきるもこそ見えしまし[illegible]

寄紅葉恋　わかれしよりそのこのかけに[illegible]

寄荷花恋　はちすなかるる[illegible]

寄瞿麦恋　かくれなく[illegible]

寄杜若恋　たちかへりもさしわたる中に[illegible]

寄菖蒲恋　いつまてとうかりしき[illegible]

寄苔恋　人しれぬ谷のこけむす[illegible]

寄鶯恋　忘るなや[illegible]

寄鵆恋　恨ても[illegible]

寄雁恋　いまさらの[illegible]

寄鴫恋　[illegible]

寄鵜恋　[illegible]

寄鴛鴦恋　夜床の[illegible]

寄鷸恋　かくしても[illegible]

寄山鳥恋　ながき夜の[illegible]

寄鶏恋　[illegible]

寄獣恋　ひとりのみ[illegible]

寄駒恋　[illegible]

寄猪恋　かるもかく[illegible]

寄鹿恋　つれもなく[illegible]

寄虫恋　[illegible]

寄蝶恋　[illegible]

寄蝉恋　うつせみの[illegible]

寄蛍恋　こころせよ[illegible]

寄松虫恋　まつ人の[illegible]

寄鈴虫恋　ふりすてて[illegible]

寄蜘恋　[illegible]

寄蛙恋　[illegible]

寄天河恋

人しれぬうらみこのまゆの川こえんとて

寄傀儡恋

寄暁恋

寄櫛恋

寄鬘恋

寄枕恋

寄衣恋

寄衾恋

寄帷恋

寄帯恋

寄書恋

寄筆恋

寄扇恋

寄笄恋

寄ら恋

寄絵恋

寄鏡恋

寄名恋

寄稲恋

寄絃遊恋

寄車恋

[illegible]

寄舟恋
よる浪生田の川のと見しかも身はうきによるやよひとこ川としし
いのちよりも人にはなれぬきまてよるへともやとこそはし

寄硯恋
こゝろをもすゝりの海の硯にて書ほとも見えねはや

寄紙恋
紙川にてもまた紙のいろそはれもせむ紙をのはし

寄冊子恋
かたみのわかれのつらさ人のうきせにかはる中の心

寄縄恋
いつはりのかく縄にかけてくるしき中そなき

寄鐘恋
いはてたゝ見るにのこれるかねのこゑおもひのほとを

雑之部

雲
よしやせにうつろふ月の影ゆゑに雲のへたてもなし

雨
こゝろしてふる雨の音を待やの月にこそ雨のおとしくさ

海上待月
かゝる月をまつ浪の上の月はまた沖の浦のなき

浦煙
なかめやる浦風に一むらのけふりそのかたにたつ

暁
うちはらふ人のかたをしきてなかめつゝ

暁更易覚
暁更寝覚
あかつきの鳥のねをきゝてそのまゝ夢もさめぬらん
ゆく雲をさそふ嵐の峰の松のこゑにしも暁のこゝろ

夕
山
ふとしも山かけの夕の月のひかりそふ
[illegible]

名所山

旅

名所旅

松

山

杜

野

[illegible]

名所永

関

[illegible]

関路行客

旅行[illegible]

名所[illegible]

[illegible]

橋

橋雨

清流遠水

池

名所池

瀧

川

[illegible]

名所川

湊

海

海路

[illegible]

浦
名所浦
かねの浦
汀
渡
里
市
名所市
故郷
故郷路
仏家
譲り
古寺松
別
旅

[illegible]

旅枕
夜旅
旅宿
旅宿嵐
旅宿雨
旅宿夜雨
羇旅
羇中山
〃〃野
〃〃橋
〃〃湊
〃〃泊
〃〃衣

[illegible]

〃〃船
[illegible]

山家
[illegible]

山家嵐
[illegible]

山家秋
[illegible]

〃〃暁
[illegible]

〃〃夜
[illegible]

〃〃路
[illegible]

〃〃水
[illegible]

〃〃瀧
[illegible]

〃〃木
[illegible]

〃〃鳥
[illegible]

〃〃人稀
[illegible]

田家
[illegible]

田家夕
[illegible]

〃〃冬
[illegible]

苔
[illegible]

庭の苔
[illegible]

〃〃路苔
[illegible]

竹
[illegible]

籬竹
[illegible]

窓竹
[illegible]

竹添久
[illegible]

松
[illegible]

浦松
[illegible]

孤雲
松深苔滑
岸椿
岸柳
岩梢
廿新
葉菜
露
錦
鷺
菅浪
舟筝
読人
衣
欲隠
盡竹欲帰
浦舟

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

漁
漁舟遅浪
野船室
海〃〃
述懐

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

迷悵依人
某里迷悵
某風〃〃
某雲〃〃
某石〃〃
某露〃〃
某霜〃〃

[illegible]

某嵩〃〃
某洞〃〃
某水〃〃
某玉〃〃
某園〃〃
某道〃〃
某橋〃〃
某川〃〃
某瀬〃〃
悵川

[illegible]

雷振旧
春〃〃
秋〃〃
冬〃〃
梅〃〃
夜深〃〃
振旧非一
振旧繁〃
暮中振旧
康〃振旧
影
夢

[illegible]

夢驚
秋夜夢
驚夢
帝王
法王
忽相
摂政
淡路廃帝
市商客
寒雉
泊遊女
王昭君

[illegible]

真如(?)日言

[illegible]

無常

[illegible]

平野

[illegible]

稲荷

[illegible]

大原野

[illegible]

布留

[illegible]

日吉

[illegible]

祇園

[illegible]

出[illegible]

[illegible]

仏事

如是性

〃〃作

〃〃因

〃〃縁

地獄界

餓鬼界

天界

声聞界

縁覚界

[illegible]

不知城武
火光金
祝

[illegible]

寄玉祝
寄日〃
寄月〃
寄菊〃
寄道〃
〃〃
寄玉〃
寄松〃

[illegible]

寄柳祝

[illegible]

寄神祇祝

[illegible]

于時天保十五辰仲夏写之

定良